

第22回 特定非営利活動法人 日本咬合学会学術大会 石垣島学術大会 大会長挨拶

第22回石垣島学術大会 大会長 砂川 毓雄

第22回特定非営利活動法人日本咬合学会学術大会を、沖縄県石垣市で開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今年度の学術大会を開催することに対し、丸山剛郎理事長、宮城正廣実行委員長をはじめ、多くの理事の先生方、また会員・スタッフの皆様のご尽力のもと、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げますとともに、あらためて感謝と敬意を表します。

今回は、「私たちが実践している明日からの臨床を考えた咬合歯科医療ーよい咀嚼とよい顎位から全身の健康をー」という大会のテーマに従いまして、新しい咬合医療である丸山咬合医学を基礎から再度学び返すことを目的とし、著名な講師による特別講演、会員による講演、リサーチ、技工士とスタッフ向けの講演内容を

を充実させた多彩なプログラム、討論、コンテスト、展示等がなされる予定です。

特別講演では、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯科心身医学分野教授豊福明先生に「咬合と不定愁訴の関連をどう診るか？」を、東京歯科大学法人類学教室教授の橋本正次先生に「頸椎の形態と構造、及び人類学的意義について」を、医療法人輝鳳会 横浜クリニック院長の青木晃先生に「“若返り”の食と生活 ～アンチエイジングと食の関係について～」を、人間性脳科学研究所所長、武蔵野学院大学・大学院教授で脳科学者の澤口俊之先生に「かみ合わせと脳」を、大阪大学名誉教授、日本咬合臨床研究所所長の丸山剛郎先生に「丸山咬合医学の新しい道」をご講演していただきます。



平成29年 5月 20日(土)・21日(日) 石垣市市民会館

沖縄県石垣市浜崎町1-1-2 Tel. 0980-82-1515・1516



今回新たに設けた丸山咬合医療の総論と実技デモでは、丸山咬合医療の基礎についてわかりやすく解説していきます。このセクションでは栗本武俊先生、富安誠先生、椎木雅和先生、鰐淵正機先生に「咀嚼」について、吉村義孝先生、青木隆典先生、栗本慎治先生には「全身健康」について、北村幹夫先生に「美容」について、佐藤由紀子先生とスタッフプログラム向けを併せて舟久保せいこ先生には「アンチエイジング」についてご講演いただきます。そして、このセクションの前後には日本咬合学会理事長の丸山剛郎先生に理事長基調講演をしていただき丸山咬合医療をより理解しやすく解説しまとめていただきます。丸山咬合医療の根本や基本をなす内容で、本学会の中心のお立場で多くの臨床を重ねられてきた先生方の最新のお話を聞くことができると思います。

脳関連(丸山咬合医療と脳、神経との関連性)では横山尚弘先生と伊東将悦先生にご講演いただきます。

理事長企画リサーチでは、長年にわたり多くの会員の方々から集めたデータを積み重ねてこられた東日本部会の寺内達成先生に「子供の咬合と全身健康」を、西日本部会の大川伊織先生には「高齢者における咬合と全身健康、補綴との関わり」を、東日本部会の原田慶先生は「全員健康チャートにおける統計分析」をご講演いただく予定です。

日曜午後から行われる市民公開講座では、「咬合・脳から全身健康・美容・アンチエイジング」と題して青木晃先生と澤口俊之先生、丸山剛郎先生に、大いにディスカッションしていただき、多くのお話の中から新たな展開や方向性が見えてくるかもしれないと期待しております。

技工のセクションでは、「技工士のための咬合再構成」と題しマスティキュレーターⅡ型の操作法、MFAのワックスアップ法、人工歯配列、補綴物のワックスアップ法についてご講演いただきます。そして恒例の咀嚼技工コンテストと展示を行う予定です。また、全国で丸山咬合医療を実践され、国民の健康の向上に努力されている会員の先生方から臨床例を発表いただき、医療の現場の生の声をお聞きいただけると思っています。

学術大会まで残すところあと僅かとなりましたが、是非、学術大会にご参加いただき、明日からの臨床に役立てて頂くことを望んでおります。

最後になりますが、5月の石垣島は30度近い気温になっており観光には適した時期になります。豊かな緑や海に囲まれた石垣島での観光と南国の四季を感じて頂きながら楽しく勉強ができれば、と思っています。まだご参加を決めておられない先生方は、今からでも是非ご参加頂ければ、と思っています。石垣島で皆様とお会いできることを楽しみにしています。

— MFA治療前後の脳血流量の研究結果報告 —

西日本部会 栗本 武俊

目的 MFA治療前後の脳血液量変化

300人を超える顎位是正治療を終了し脳関連症状、心の問題など前頭前野が大きく関与しているだろう様々な症状の改善を経験した。

前頭前野は脳の前方に位置し、特に多くの血液量を必要とする脳の最初中枢である。感情のコントロールや創造力、生きていく意欲、計画を立て実行する力など、社会生活に必要なことはほとんどここから指令が出されている。

脳の活性化に不可欠となるのは栄養素と酸素で、これらの運搬に脳血液量が重要な要素である。今回顎位是正前後での脳血液量の変化を光トポグラフィーで観察し良好な結果を得たので報告する。

方法

丸山剛郎大阪大学名誉教授の指導の下、平成25年5月から28年4月まで下顎位是正治療を行った90名中、同意を得た術前脳血液量不良患者51名の術前・下顎位是正装置装着1～3カ月後の前頭前野の血液量の変化を観察した。術前光トポ画像で良好と思われた39名は削除した。

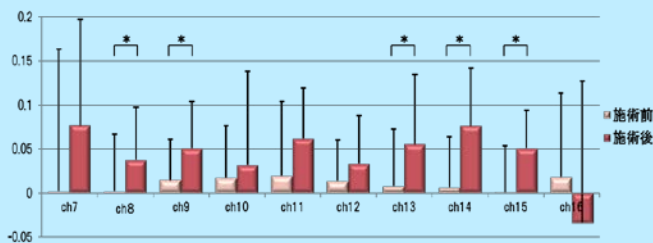
下顎位是正装置は丸山剛郎大阪大学名誉教授考案MFA(Mandibular positioning appliance)を用いた。

脳血液量の計測にはWTO-100(日立ハイテック社製)を、ワーキングメモリー課題の呈示には刺激呈示ユニットSP-POST01(日立ハイテック社製)を使用した。

データ解析にはPlatform for Optical Topography Analysis Tools(POTATo)を用いた。これは課題提示開始3秒後から8秒後までの5秒間の平均値を算出した。

結果

ch8・9・13・14・15で施術前に比べ施術後で有意な増加を認めた。(多重比較補正として、ボンフェローニ(Bonferroni)法を用いた)



まとめと考察

丸山剛郎大阪大学名誉教授による下顎位是正治療は下顎位を正常な位置に戻すことで頭位が瞬時に身体に対して前後的・側方的に安定し頸部周囲筋の緊張を取り、結果脳血液量の改善に繋がったと考える。

脳の最初中枢である前頭前野への血液量改善は、澤口教授の報告にもあるワーキングメモリの改善やHPA系の働きの向上に関連していると考えられる。

あなたの息、大丈夫？

口腔内ガスセルフチェッカー

Prana プラナ

人には聞けない...でも、気になる...そんな口臭を手軽にチェック!

自分自身でチェックできる! 誰でも簡単! お手軽操作!!

REP-104CP

ADDNIS 株式会社アドニスエンジニアリング 大阪府交野市東園北1丁目3番地15号

【販売先】 エムエイチグループ info@mhjlobe.com



東日本部会 原田 慶

平成29年2月11日(土)から12日(日)にかけて、「山と温泉の会」の会員5名(丸山剛郎大阪大学名誉教授、富安誠先生、鴫崎和義先生、栗本慎治先生、原田慶)で、長野県菅平に宿泊して、根子岳の山頂に行っていました。11日は、天候にも恵まれて、まるで私達を歓迎してくれているかのようでした。

私と鴫崎和義先生が車で菅平プリンスホテルへ向かう道中にはところどころ積雪もありましたが、吹雪にあうこともなく、無事到着することができました。他の3人の先生方が到着するまでの間、私達2人は旅の疲れをとるためホテル自慢の天然温泉「きら星の湯」に入りました。風呂自体はこじんまりとし、泉質は大変素晴らしく身も心も温まりリフレッシュすることができました。

私達が温泉からあがりひと休みしていると、午後4時頃に、3人の先生方が到着、既に列車でワインを飲んでこられたとのこと。始めに、エビスビールで乾杯。持参した奄美黒糖焼酎「紅さんご」は、先生方のお口にあうか不安だったのですが、意外と好評だったので、私はほっといたしました。丸山剛郎教授が持参されたワインとつまみの両国国技館名物「国技館やきとり」は最高に美味しかったです。富安誠先生が持参した酒の肴の「うなぎの肝」、大変美味でした。

鴫崎和義先生と私が、行きに小布施で仕入れてきた日本酒「本吉乃川しぼりたて生酒」を丸山剛郎教授に飲んでいただいたところ大変感動されて、Facebookに掲載していただいたことは、私にとっては喜びと感動でした。

夕食はバイキング。つつい食べ過ぎてしまい食後もお酒を交わしながら、翌日のスノーシューイングのことで盛り上がり、話はつきませんでしたが、午後11時頃就寝いたしました。外気温は大変寒かったのですが、温泉で身体が温まっていたためか良質な眠りをとることができました。

次の日の朝6時、温泉と朝食をすませた私達は、奥ダボス管理センターの車でリフト乗り場へ、リフトに5分ほど揺られた後スノーキャットと呼ばれている雪上車に30分ほど乗りました。

雪山の急斜面をキャタピラで上っていくのですが、乗り心地はかなりのもので、天井から下がっているつり輪や棒にしがみついていると転げ落ちるのではないかと思われるほどでした。私は乗車しながら、昨日深酒をしなくてよかったなあと思えました。最もお酒をのまっていた丸山剛郎教授は、我々の中でも最も元気そうに思え、さすがは教授と尊敬の念を改めてこころに留めていると、スノーキャットは「最高地点降り場」に到着。

下界は晴れていたのですが、頂上に近づくにつれて遠くの山々は雪に隠されていきました。零下17度の世界、スノーシューを装着するため手袋をとるとものの数秒で手が冷えてきました。

ここから私達5人はスノーシュー装着後ところどころ強い傾斜のある雪山を20分ほど歩き、根子岳山頂を目指しました。寒かった身体もしだいに暖くなり、冷たかった手足の先も汗をかくくらいの状態になっ

ていきました。歩き始めたころは、余裕がなく言葉も少なかったのですが、5分くらいするとみんなスノーシューに慣れてきて、写真も撮ることができるくらいの余裕ができました。ただし、零下17度の世界では、スマートホンも正常に働かず、デジタルカメラに至っては、電池が正常時の10倍くらい速く消耗、恐るべき零下の世界。

身も心も温まったころ、根子岳の山頂に到着しました。想像できないくらいの最高の景色でした。360度、全てが白銀の世界。

廻りの山は、我々に姿を見せるのが恥ずかしくなったのか、時折、忘れた頃に姿をみせてくれるだけ。

山の木々は、美しい雪化粧を施していました。これ以上ないくらいの雪が積もっており、まるで美しい女性がドレスを着ているよう。

この木々達から、生命エネルギーを分けて頂いたためか、私自信も、ものすごく元気になりました。

私達は、暫く山頂で過ごした後、歩いてきた道を通ってスノーキャットの乗り場まで戻り、スノーキャットと自動車までホテルまで下山した後、温泉につかり、冷えた身体を温めることができました。

今回は、雪の根子岳の山頂をスノーシューで歩くという丸山剛郎教授の企画でした。私ひとりでは、決していくことがない(思いつかない)ところへ、連れて行っていただきまして誠に感謝しております。雪化粧を施した根子岳は大変美しく、また荒々しさも感じました。この化粧がとれた時、根子岳は、いったいどのような姿をみせてくれるのでしょうか。

機会を得られたら、今度は新緑の根子岳を見てみたいと思います。

同行していただいた先生方、本当にありがとうございました。

